

# 青少年教育施設職員研修

## 報告書

国立赤城青少年交流の家では、4月12日（火）～4月15日（金）の3泊4日の日程で、教育事業「青少年教育施設職員研修」を開催しました。この事業は、新規採用となった職員が青少年教育施設職員として必要な指導スキルを修得する機会とすることや施設間連携を生み出す関係づくりの機会とすることを趣旨として行いました。参加者は、当所の新任職員7名と群馬・千葉・茨城から4施設4名が参加し合同で実施しました。

### 【1日目】

「青少年教育施設における体験活動の重要性」では、体験活動がどのような影響を与えるのかを学びました。「コミュニケーションプログラム」では、アイスブレイクをした後、活動を通しお互いの信頼関係を高めるプログラムを体験しました。また、当所で実施しているタベのつどい研修も行いました。夜には「青少年教育施設に求められる役割について」では、社会は時代と共に変化している。青少年教育施設はどうあるべきか。場の提供の仕方とプログラムについて考える必要があることを学びました。

講義1 青少年教育施設における体験活動の重要性

講師：国立赤城青少年交流の家 所長 杉浦俊之

実技1 コミュニケーションプログラム「あかぎアドベンチャープログラム」

講師：国立赤城青少年交流の家 職員

講義2 「青少年教育施設に求められる役割について」

講師：群馬県教育委員会中部教育事務所生涯学習係  
社会教育主事 齊藤 裕徳 氏



### 【2日目】

「野外体験活動に必要な基本的スキルについて」では、ロープワーク、テント張り、火

起こしの仕方を学びました。新任者なので野外炊事など慣れないことに挑戦し、思い思いのご飯を炊きあげたりしました。参加者にとって良い経験ができたと思います。「青少年教育施設職員に必要な資質とは」では、ワークショップ形式で学びました。参加者同士でグループになり理想の施設職員をテーマに熱く語り合いました。

実習1 「野外活動に必要な基本的スキルについて ー刃物、ロープ、テント編ー」

講師：国立赤城青少年交流の家 職員

実技2 「野外炊事について」

講師：国立赤城青少年交流の家 職員

実習2 ワークショップ「青少年教育施設職員に必要な資質とは」

講師：国立赤城青少年交流の家 職員



### 【3日目】

「体験活動プログラムの企画ーアクティビティー編ー」では、当所の周辺で自然を生かした目隠しウォーク、森のレストランなどのアクティビティーを体験しました。「青少年教育施設職員に必要なホスピタリティとは（接遇研修）」では、FMぐんまパーソナリティでフリーアナウンサーの奈良のりえ氏から1分間スピーチや名刺交換・電話応対などのロールプレイを交え講義をしていただきました。大東文化大学中村先生による「自然体験活動における安全管理とファーストエイド」では、講義と実習を行いました。「安全が活動の範囲を広げる」こと。リスクをなくす事が目的ではなく、常にリスクを予測しながら活動することが大切であることを理解しました。

実習3 「体験活動プログラムの企画 ーアクティビティー編ー」

講師：国立赤城青少年交流の家 職員

講義3 「青少年教育施設職員に必要なホスピタリティとは（接遇研修）」

講師：FMぐんまパーソナリティ

フリーアナウンサー 奈良 のりえ 氏

講義4 「自然体験活動における安全管理とファーストエイド」

講師：大東文化大学スポーツ健康学部 教授 中村 正雄 氏



#### 【4日目】

「施設の魅力を活かした事業企画のポイント」では企画の立て方とグループで企画を立て発表をしました。あなたの施設を活かした事業企画のポイントでは、自分の施設の強みと弱み、ハード面・ソフト面を洗い出しました。企画の要素には人、時、金、コンセプトが必要であることや企画は思いを形にすることを学び、課題から自分の考えた企画書を作成しました。最後に、講習のまとめとふり返しを行い、4日間のふり返しと勤務先に活かせることを書いて発表してもらいました。

講義5「施設の魅力を活かした事業企画のポイント」

講師：国立赤城青少年交流の家 職員

まとめ 講習のまとめ ふりかえり



実施後のアンケートでは参加者からの感想として、研修内容について「内容が充実していたように思います。」とか「すべてがこれから自分の職務に活きるものとなりました。」との感想をいただきました。さらに「参加者同士での交流と座学と実技がバランス良く設置されていました。」との感想をいただき、参加者にとって研修内容がちょうど良かったのではないかと思います。さらに、「研修をともに受けた仲間との仲も深まりました。」といった感想もいただきました。合同研修は、同期が一緒の期間を過ごし、同じ立場に置かれた仲間との出会いでもあります。研修や情報交換会を通して参加者同士の交流が深まったと思います。

課題としては近隣の公立青少年教育施設の職員にも門戸を開放していますが、4月中旬という実施時期もあり参加者が集まりにくいと思われるので、次年度は実施時期を検討し、多くの方が参加できるようにしていきたいと思います。

(担当・根本)